

GCI

2016 Interim Business Report

第100期 中間報告書

平成28年4月1日～平成28年9月30日

群栄化学工業株式会社

証券コード：4229



連結決算ハイライト (当中間期の業績)

売上高
12,599百万円
(前年同期比6.2%減)



経常利益
1,374百万円
(前年同期比8.4%増)



親会社株主に帰属する四半期純利益
1,002百万円
(前年同期比6.9%増)



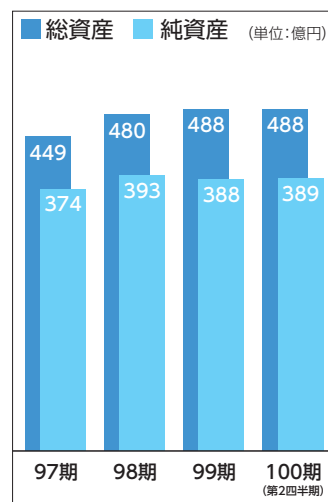
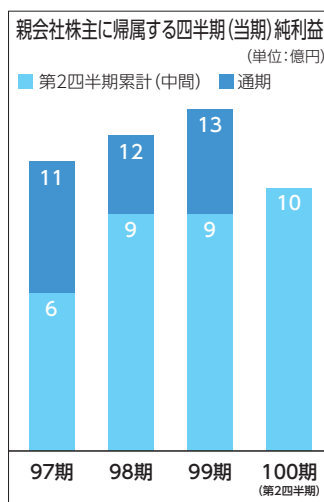
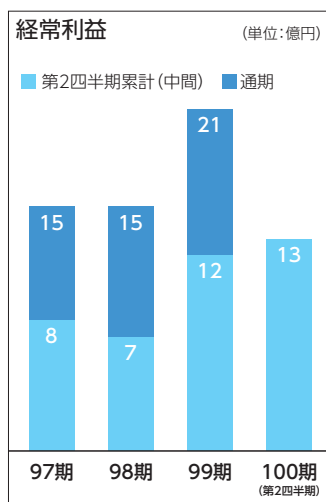
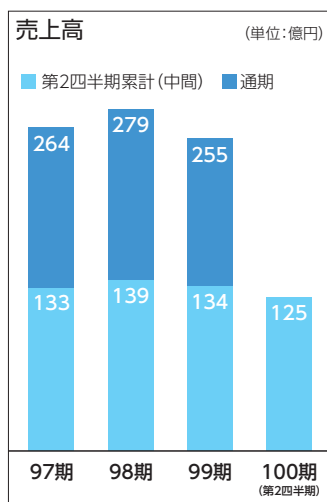
業績のポイント

ポイント1

新規顧客の獲得や新規製品の開発等積極的な事業活動を行ったが、依然として続く海外経済の減速や需要の低迷を受け減収。

ポイント2

グループ全体で生産効率向上及びコスト削減の取り組みを実施し、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益は増益。



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表 (要約)

(単位: 百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成28年9月30日現在)	前期末 (平成28年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	21,772	22,163
固定資産	27,058	26,643
有形固定資産	17,318	17,280
無形固定資産	24	17
投資その他の資産	9,715	9,344
資産合計	48,830	48,806
負債の部		
流動負債	6,010	5,695
固定負債	3,891	4,243
負債合計	9,902	9,938
純資産の部		
株主資本	37,133	36,780
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	25,689	25,689
利益剰余金	11,893	11,103
自己株式	△5,449	△5,013
その他の包括利益累計額	718	861
非支配株主持分	1,076	1,227
純資産合計	38,928	38,868
負債・純資産合計	48,830	48,806

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (要約)

(単位: 百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	12,599	13,429
売上原価	9,513	10,506
売上総利益	3,085	2,922
販売費及び一般管理費	1,752	1,680
営業利益	1,332	1,241
営業外収益	112	103
営業外費用	70	77
経常利益	1,374	1,267
特別利益	43	10
特別損失	26	20
税金等調整前四半期純利益	1,391	1,258
四半期純利益	1,087	1,003
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,002	937

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● ホームページのご案内

ホームページでは、当社の企業活動全般の情報や、株主・投資家の皆様向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。

群栄化学

検索

<http://www.gunei-chemical.co.jp>

チャレンジする企業風土を築き上げ、マー



代表取締役社長 有田 喜一郎

Q 新社長就任について 今のお気持ちをお聞かせください。

A 本年6月28日開催の第99回定時株主総会ならびに取締役会によりご承認いただき、代表取締役社長を拝命しました有田喜一郎です。設立70周年(決算期第100期)の節目を機に、より活力ある会社づくりを担っていくための新経営体制発足と自覚し、さらなる事業の発展に向けて邁進してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

当社はこれまで、化学品においてはフェノール樹脂を柱に、食品においては水あめや異性化糖を主として事業を拡大してきました。それらを維持しつつ、今後の持続的成長に向けて、取り組みの幅を従来の事業領域から周辺に広げていくことが、当社の経営課題となっています。芳香族化合物メーカーへの領域拡大や、化学品と食品の両事業を持つ強みを活かしたコラボレーション、そして海外事業による展開など、当社にとって将来の成長余地は少なくありません。

当社の強みは、お客様のニーズを的確に把握し、カスタマイズしたソリューションをきっちり提供できる対応力にあります。それを支えているのは、

堅実を重んじる社風と良好な社内コミュニケーションです。

そうした強みと長所を活かしながら、現状維持ではなく、新たな成長機会を捉えてチャレンジしていく企業風土を築き上げること。そして社員一人ひとりの能力を高め、活力ある会社として前進させていくことが、私の経営者としてのミッションであると考えています。

Q 当中間期の営業状況と決算内容をご説明願います。

A この半年間の営業状況を振り返ると、化学品事業は全般的にポリユームの減少に見舞われました。

電子材料向け樹脂は、最先端分野への採用など新規開発・拡販が寄与し堅調に推移しましたが、自動車向け樹脂および建設機械向け樹脂は、需要の低迷を受け低調に推移しました。その結果、売上高は前年同期を下回りました。

しかし、高付加価値製品の利益貢献およびグループ全体での生産効率向上、コスト削減等の取り組みに注力した結果、利益は増加となりました。

食品事業は、汎用品が引き続き厳しい競争環境に置かれており、異性化糖の各種飲料向けが伸び悩んだ結果、減収となりました。

以上により当中間期の連結業績は、売上高125億99百万円(前年同期比6.2%減)、営業利益13億32百万円(同7.3%増)、経常利益13億74百万円(同8.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益10億2百万円(同6.9%増)となりました。

Q 中長期成長の方向性と取り組みをご説明願います。

A 大きな方向性としては、当社が過去70年にわたり培ってきた合成技術や糖化技術を活かしながら、冒頭に述べました通り、取り組みの幅を従来の事業領域から周辺に広げていきたいと考えています。

そのための社内体制として、平成28年7月から事業本部を「営業・マーケティング本部」と改称し、マーケティングを重視した組織による一歩踏み込んだソリューション提案に着手しました。これにより営業部門だけでなく開発部門も含めた全社にマーケティング意識を浸透させ、お客様のニーズ

マーケティング重視による成長を目指します。

を捉えた「製品＋ソリューション」を提供できるメーカーを目指します。そしてお客様のニーズに応じていく中で、事業領域の幅を徐々に広げ、新しい群栄化学工業を築き上げていきます。

こうした方向性に基づく取り組みとして、化学事業では今後、製品の川下材料分野への用途展開を図るべく、社内に評価体制を確保していく考えです。また、低メタル化やノンホルマリン化といった素材に対する要請や、新市場として期待される3Dプリンタ、IoT、自動運転、AI技術などの動向を見据え、新たなニーズの獲得に向けた対応を進めていく方針です。

食品事業は、平成28年1月に技術開発センター内に開設した「GCIプラザ」の機能を活かして、でんぷん糖製品のアプリケーション開発を推進し、レシピ提案による営業アプローチを強化していきます。

一方、タイ子会社を軸とするASEAN展開においても、ソリューション提案が今後の成長のカギとなります。技術開発面や製造面で日本国内からの協力を受け、ローカルニーズを充足するカスタマイズを図りつつ、現地のリーディングカンパニーに対しては、より高付加価値な製品を提案していきます。インド事業は先行投資状況が続いていますが、当社にとって川下領域となるRCS（レジソコートサンド）を手掛けており、事業ノウハウを獲得しつつ、早期の軌道化を目指します。

Q

通期業績の見通しと 下期の展開はいかがですか？

A

通期の連結業績については、今のところ期初の計画通りの利益改善を見込み、売上高256億円（前期比0.0%増）、営業利益21億円（同2.0%増）、経常利益22億円（同2.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益15億円（同10.1%増）の予想数値を維持しています。

下期は、前述のマーケティング重視体制のもと、市場のニーズを取り込んで開発にフィードバックし、ソリューション提供に活かしていく仕組みを確立します。

また、当社は開発型企業にシフトすべく「新規製品上市率30%」を目標に掲げています。引き続き売上高に占める市場投入後5年以内の製品比

率（金額ベース）を上昇させることで収益性を高め、製品づくりを通じた企業価値の向上を実現していきます。

Q

株主の皆様へのメッセージを お願いします。

A

今回の中間配当は、3円の普通配当に1円の記念配当（設立70周年、決算期第100期記念）を加え、1株当たり4円とさせていただきました。期末配当についても、30円の普通配当に10円を増配し、1株当たり40円を予定しています（※）。今後も業績に裏付けされた成果の配分を安定的に株主の皆様に行い、1株当たり配当の向上にも努めてまいります。

株主の皆様には、会社設立70周年を迎えるまでのご支援に深く感謝申し上げますとともに、次の10年における着実な成長にご期待いただきたいと存じます。

当社は今後、コーポレートガバナンスの一層の強化に努め、経営の透明性・健全性を担保しつつ、社会価値の継続的な創出と企業価値の最大化を目指してまいります。これからも当社事業へのご理解とともに長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（※）当社は、平成28年10月1日付で普通株式10株を1株に株式併合しています。そのため、期末配当については、配当金額を10倍しています。

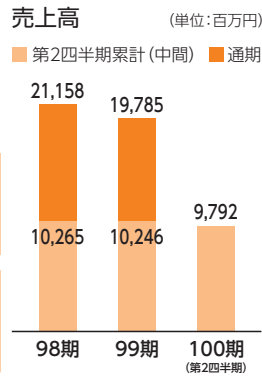


化学品事業 合成樹脂・高機能繊維の製造及び販売

▶ 需要の低迷を受けるも、
高付加価値製品が
堅調に推移

売上高 **9,792百万円**
(前年同期比4.4%減)

営業利益 **1,212百万円**
(前年同期比2.7%増)

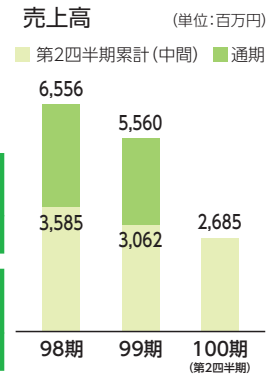


食品事業 でんぷん糖類の製造及び販売

▶ 飲料向けの
異性化糖等が伸び悩み
低調に推移

売上高 **2,685百万円**
(前年同期比12.3%減)

営業利益 **41百万円**
(前年同期比-)

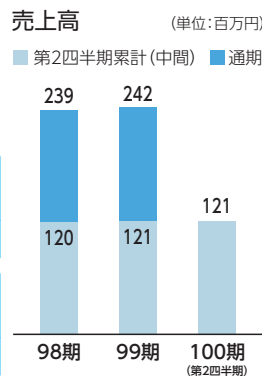


不動産活用業

▶ 前年同期並みで
堅調に推移

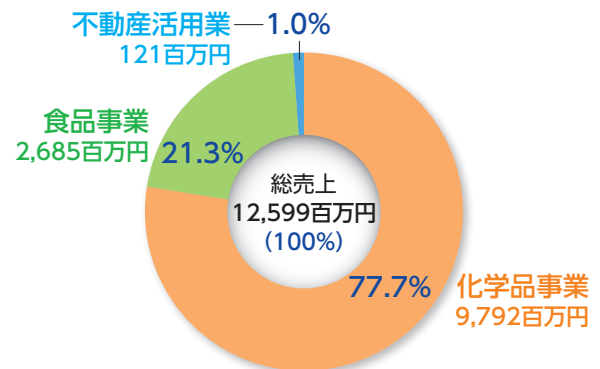
売上高 **121百万円**
(前年同期比0.1%増)

営業利益 **78百万円**
(前年同期比4.0%減)



事業別売上高構成(連結)

平成28年4月1日～平成28年9月30日



ニュース&トピックス News & Topics

新素材『キャタリストコーテッドサンド (CCS)』開発 ～3Dプリンタの進展～

平成25年に始動した3Dプリンタの国家プロジェクト。当社は鋳型材料(砂やバインダー)の開発担当企業として、新たに『キャタリストコーテッドサンド(以下、CCS)』を開発しました。非常に高い流動性を持つCCSは、積層造形の高速度に大きく貢献し、複雑な形状の鋳型も短時間で造り上げることが可能にしました。本年開催された「第72回 世界鋳造会議 WFC2016展示会」にも出展し、国内外の多くの来場者から好評をいただきました。今後のモノづくり産業を支える素材となれるよう、本年10月より市場への展開を開始しています。



Catalyst Coated Sand

3Dプリンタを用いた鋳型製造工程

① CCSを敷く



② インクジェット用バインダーを塗布し、塗布した部分を硬化させる



③ 繰り返す



④ 余分なCCSを落とす



⑤ 鋳型完成(ポンプ用の羽 中子)



【製造例】

航空機部品の中子



【協力：谷田合金株式会社】

CCSを用いれば、このような複雑な形状の鋳型も手間なく短時間で造ることができます。

会社の概要

商号	群栄化学工業株式会社 Gun Ei Chemical Industry Co., Ltd.
設立	昭和21年1月23日
資本金	50億円
従業員数	467名(連結)

株式の状況

発行可能株式総数	176,211,000株
発行済株式総数	89,983,085株
株主総数	7,950名

(注) 上記は株式併合前の数値となります。

役員

代表取締役会長	有田 喜一	常勤監査役	湯浅 快哉
代表取締役社長	有田 喜一郎	監査役	早川 洋
常務取締役	吉村 正司	監査役	二宮 茂明
取締役	額田 寛		
取締役	岩淵 滋		
取締役	田村 正明		

(注) 取締役 岩淵滋、田村正明の両氏は社外取締役であります。
監査役 早川洋、二宮茂明の両氏は社外監査役であります。

お知らせ

Notice

単元株式数の変更、株式併合について

当社は、平成28年10月1日をもって、

①単元株式数の変更 (1,000株から100株へ) ②株式併合 (当社普通株式10株を1株に併合) を実施いたしました。

※第99回定時株主総会の決議に基づき実施しております。

実施の背景	株式併合の影響	1株未満の端数の処理
<p>全国の証券取引所では、投資家の利便性を向上させるため、平成30年10月までに売買単位である単元株式数を100株に統一しようとしております。当社はこの趣旨を尊重し、単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。</p> <p>また、証券取引所が望ましいとしている投資単位の水準(5万円以上50万円未満)とするため、10株を1株に併合いたしました。</p>	<p>ご所有の株式数は、併合前の10分の1となりますが、純資産等は変動しませんので、1株当たりの純資産額は10倍となり、株式市況の変動など他の要因を除けば、株主様がご所有の当社株式の資産価値が変わることはありません。</p> <p>また、株価につきましては、ほぼ併合比率に則した値動きをしております。</p> <p>〈ご参考〉 併合前の最終取引日終値 302円 併合後の始値 2,990円</p>	<p>株式併合に伴い、1株未満の端数が生じた株主様につきましては、当社がこれを一括買取処分いたしましたので、処分代金を第100期中間配当金に合算してお支払いいたします。</p> <p>なお、併合前のご所有株式数が10株未満であった株主様につきましては、併合によりすべてのご所有株式が端数株式となるため、割当株式はございません。ご了承賜りますようお願い申し上げます。</p>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日	<p>(お知らせ)</p> <p>1 ご注意</p> <p>(1) 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。</p> <p>(2) 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。</p> <p>(3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。</p> <p>2 中間配当決議通知はがきの郵送廃止について(当期より実施)</p> <p>当社の中間配当に関するご案内につきましては、株主の皆様へ「中間配当金支払いについてのお知らせ」と題したはがきをお送りしてきましたが、当期よりはがきの郵送を廃止させていただきます。</p> <p>今後は当社ホームページ(http://www.gunei-chemical.co.jp)にてご案内させていただきますので、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>3 マイナンバーのお届出について</p> <p>平成28年1月より利用開始されたマイナンバーですが、こちらは株式の税務関係手続きでも必要となります。このため、株主様はお取引の証券会社等へマイナンバーのお届出をお願いいたします。</p> <p>【株主様のマイナンバーの利用用途】 税務署に提出する支払調書(※)への記載 ※配当金等に関する支払調書 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書</p> <p>● マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先 ● 証券口座にて株式を管理されている株主様 ● 証券会社とのお取引がない株主様 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 お取引の証券会社までお問い合わせください。 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711 (通話料無料)</p>
期末配当金受領株主確定日	3月31日	
中間配当金受領株主確定日	9月30日	
定時株主総会	毎年6月	
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)	
上場証券取引所	東京証券取引所	
公告方法	電子公告 URL http://www.gunei-chemical.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載	
幹事証券	野村證券株式会社 みずほ証券株式会社 SMBC日興証券株式会社	